



## 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔 ①

る。後サラリーマンに転職。営業の仕事が面白くなり、「もう絵を描くことはないだろう」と思っていたという。今はサラリーマン時代の手腕を買われ、弟子屈町の長谷製菓で顧問を務める。「絵が描けるのも、長谷寿人社長をはじめ社員の皆さんのご理解のおかげ」と感謝する。

道展では3回連続入選し、釧根で初の新人賞、佳作賞連続受賞。釧美展では4回連続入選し、2019年度釧路市長賞を受賞。代表作は「吹雪く漁村」「序曲蔓の舞」「序曲生命」。

道東を歩き回り、木を見るとスケッチする。「気が付いたら木ばかり描いていた」と笑うが、木からは生命を感じる。その感動、心象風景を色で表している。

会社を定年退職し釧路市阿寒町に移住。そこで偶然見たけあらしの光景に感動した。もう何年も絵は描いていなかったが、再び絵と向き合う気持ちが湧き上がった。以来、道東の自然風景をモチーフに、幻想的な日本画を描き続ける。岩絵具を巧みに使いこなした独特の表現は、日本画に新しい風を吹き込んだといわれるほど独創性に富んでいる。

芦別市生まれ、白糠町育ち。20代後半まで岐阜で日本画を描いていたが、その

公益財団法人釧新教育芸術振興基金は、2020年度の釧新郷土芸術賞を3個人に贈る。受賞者の横顔を3回にわたって紹介する。



日本画

中居 滄晟さん(69)＝釧路市阿寒町

# 岩絵具巧みに独創表現